

2021 年度第 1 四半期 WEB 決算説明会（2021 年 11 月 12 日開催）**およびアナリストミーティングの主な質疑応答****【1Q 実績】**

1. 1Q の受注高 663 億円は上期受注計画 1,070 億円に対し高い水準だが、社内計画に対してどの程度上回ったのか、上回ったのは主にどの品目か？

A: 1Q 受注高は社内計画を 2 割強ほど上回った。品目別では主に半導体電子が 3 割程度、FPD が 5 割強上回った。

2. 上期受注計画 1,070 億円に対して 1Q 受注高 663 億円なので差引計算すると 2Q は 400 億円程度となるが、2Q は下がらず上期計画を上回るのではないかと？ 通期の上方修正はしないのか？

A: 顧客メーカーも部材長納期化を意識して、早めに発注いただく動きが高まっており、2Q も受注前倒しが継続するものと思われる。2Q も 1Q と同程度の受注高になり、結果として上期受注計画を上回る可能性があるが、前倒し案件が多く、通期の受注見込みについては今のところ修正は無い。

3. 前期 4Q の売上総利益率 31.4% から 27.9% に大幅低下したのはなぜか？ 2Q 以降改善するのか？ 上期・通期の利益計画等に変更は無いのか？ モノづくり力強化による利益率改善は進んでいるか？

A: 売上高が 545 億円から 474 億円に 71 億円減少した影響が大きい。また、利益率の低い案件の売上が 1Q にあったこと、マテリアル事業で材料価格上昇の価格転嫁が遅れたことなども影響している。

2Q 以降は利益率の低い案件の影響は無くなり、モノづくり力強化による利益率改善の効果も徐々に貢献するので、上期・通期の利益計画等に変更はない。

モノづくり力強化の各施策は着実に進めており、着々と利益率改善につながってきており、引き続き精力的に取り組んでいく。

5. 1Q の FPD および半導体電子部品の受注高・売上高の用途別内訳は？

A: 別紙のとおり。

6. 1Q の営業利益率順位は？

A: 別紙のとおり。

7. 設備投資、研究開発費、減価償却費の 21 年度計画・1Q 実績は？

A: 設備投資：年間計画 184 億円 実績 21 億円

（うち、研究開発向け：年間計画 127 億円 実績 13 億円）

研究開発費：年間計画 96 億円 実績 22 億円

減価償却費：年間計画 92 億円 実績 20 億円

【半導体電子 受注動向】

8. 半導体の投資動向・受注動向について教えてほしい。

A: ロジック・メモリともに当初計画通りに受注が進んでいる。

ロジックは、1 社目のファウンドリーの投資が活発化しており、2 社目のファウンドリーも投資が進みつつある。メタル・ハード・マスク工程参入によりアルバックの装置に対する評価が高まっており、他工程参入に向けた共同開発も増加しており、計画どおり、前年度の 2 倍以上の受注の実現を目指している。

メモリも DRAM・NAND ともに計画通りの投資を見込んでおり、1 Q は当初計画より前倒した形で受注が進んでいる。

9. 電子の設備投資動向と受注動向について教えてほしい。

A: パワーデバイス、通信デバイス、オプト関連などの設備投資意欲は強く、年間計画どおりの受注を見込んでいる。

部材長納期化への対応として前倒し発注する動きもあり、1 Q の受注は社内計画を上回る着地となった。

特にパワーデバイスは、日本メーカーの積極投資姿勢が鮮明になるとともに、中国の国産化投資の動きも活発化しており、日本・中国の両国を中心に伸びていく。

その他の分野についても日本・中国ともに投資意欲が強く、今後伸びていく。

【FPD 受注動向】

10. ディスプレイ関連の投資動向・受注動向全般について教えてほしい。

A: LCD 投資は引き続き活発で、部品長納期化を踏まえ前倒し発注もあり、1 Q の受注は高水準となった。2 Q も引き続き高水準の受注となる可能性が高い。

来年以降の LCD 投資計画についても、TV 用パネルの価格下落はあるが、モニター・モバイル・車載など IT パネル需要は引き続き高く、投資計画に特に大きな変更は無いと認識している。

スマートフォンやタブレット用の OLED 投資については、バックプレーン用スパッタ装置の追加投資等が入り、蒸着装置についても 2 Q に前倒しで受注となる可能性もあり、順調に進んでいる。

【部材調達関連】

11. 部材長納期化による影響はあるのか？どのような対策を取っているのか？

A: 一部部材の長納期化が一段と進んでいる。通常は 1~4 か月くらいの納期だったものが、6~8 か月に伸びているものもある。

顧客メーカーともフォアキャスト情報を共有するとともに、取引先や商社との納期や在庫状況の確認・調整・納期交渉等を行い、必要に応じて先行手配等を行うなど対応している。

12. 原材料価格上昇・長納期部材の早期調達のための価格上昇等に伴う部材コストアップ等の影響はあるのか？

A: 材料価格の上昇等の影響でマテリアル事業の利益率が 1 Q は低下した。顧客メーカーとの価格交渉により利益率の回復を図っていく予定。

全体の利益率改善については、① 2 Q 以降、下期にかけて売上高が順次増加し利益率も改善する見込みであり、② 1 Q の利益率が低い案件の影響も 2 Q 以降は無くなるため利益率が戻る。③ マテリアル事業の材料価格上昇についても値上げ交渉により利益率を改善する予定。モノづくり力強化の各施策は着実に進めており、着々と利益率改善につながってきており、引き続き精力的に取り組んでいく。

以上

別紙：品目別実績 内訳割合・営業利益率順位

●受注高 品目別の内訳割合

受注高	FY2021 1Q
半導体電子（億円）	214
・メモリ	3割強
・ロジック	1割半ば
・電子部品	3割弱
・パワー半導体	1割半ば
・実装	数%
・その他	1桁台半ば
FPD（億円）	213
・LCD	5割弱
（大型向け割合）	（ほぼ大型向け）
・OLED	4割弱
・その他	1割半ば

●売上高 品目別の内訳割合

売上高	FY2021 1Q
半導体電子（億円）	170
・メモリ	3割強
・ロジック	約1割
・電子部品	約4割
・パワー半導体	1割半ば
・実装	数%
・その他	—
FPD（億円）	119
・LCD	4割弱
（大型向け割合）	（大型向け7割強）
・OLED	5割半ば
・その他	1割弱

●営業利益率順位 FY2021 1Q実績

順位	品目
1	コンポーネント
2	半導体電子
3	一般産業
4	FPD
5	その他
6	材料

全社平均利益率は

3) 一般産業と

4) FPDとの間